# 第19編　先染又は後染

## 1. 先　　染

一般的に先染とは，総糸の時点で染色した後，製織して柄模様を織り出す織物で，絣織物や紋織物がこの方法である。織物としては，大島紬。結城紬。村山大島。十日町織物。塩沢。小千谷。久留米絣。琉球絣。久米島紬。宮古上布等である。

## 2. 後　　染

後染とは，白糸で織った白布に型捺や筆で描いて，柄模様を染出す方法で，友祥染。書き友祥。紋付け染。ユカタ染等がこの方法で染色される。

## 3. 大島紬の場合の先染及び後染について

大島紬でいう先染とは，総糸の時点で染色した後，整経，糊張，絣締めしたムシロの地色を染色する方法で，これを総解きすると，総糸で染色した色が点絣として表われるのが，先染絣である。

後染とは，白糸で整経，糊張，絣締めしたムシロの地色を染色した絣を解くと点絣が白色となって表われるので，この絣を合成染料等で染色すると，白の点絣だけが染色される。このように，絣にしてから別の色を染色するのが，後染加工である。この加工法は同じ柄で，数色の色柄を生産する場合に適する。例えば，揚枠した後２疋ずつでも異なった色が染色されるということである。

## 4. 鑑　　定

大島紬の場合は，両者とも白になるべき点絣に，染色した色が地色にも染色するので，先染か後染かの鑑別は困難である。